

## 【参考資料】

### 令和 8 年度第 1 回専門部会 グループワーク結果

7/22 18:35 開会 会議室 7・8

A-1 グループ

大塚ファシリテーター、平岡委員、嶋野委員、江口委員

※佐藤委員欠席 ※丸委員(書面提出)

議事録…木村

(施策：安心して生み育てることができる子育て支援)

出席職員：有本課長、加藤発達支援センター長、佐藤係長、喜多係長

大塚 事前質問について何かあれば

委員 事前質問の内容で、この事業(両親面談)は、事業という形ではなくても過去にやってきたのか、新たに始めたのか聞きたい、また、その実績について。

喜多 事業は、令和7年度から新たに始めたもの。妊婦相談は例年実施してきたが、妊婦さんだけでなくパートナーにも拡大したのが令和7年度から。実績は、R7年8月からスタートし対象49家庭中、23家庭がパートナー来てくれた。子育て講座については、2か月児、参加者69名、7か月児、89名、10か月児は9月から開始し、51名の参加。

委員 事業が進化していると捉えていいのか

喜多 町保健師がその部分に課題意識をもっているため、そういった理解でいる

委員 成果指標①、乳幼児健診アンケートの回答率について、健診に参加した方が、どれだけアンケートに答えているのか

喜多 健診は、1か月、4か月、10か月等実施し、95%を超える受診率、アンケートはその会場で書いてもらうため、基本的にはすべての家庭で答えてもらっていると把握している。

大塚 評価に移る。

委員 妥当、C評価

委員 妥当、C評価

委員 妥当、C評価

委員 妥当、C評価

大塚 評価理由について伺う。

委員 理由は、成果指標に変動あるものの、前進していると捉えている

委員 理由は、いろんなことを新たに始めているので、前進していると捉える

委員 子育て中の不安な時期に行政と繋がれる、アウトリーチに近い、子育ての悩み、不安

を共有できる環境が整っていると思う。

委員 アンケート調査結果が高い水準を維持している。

大塚 今後の取り組みについて意見をいただきたい。

委員 事業が良く進んでいるので、今後も引き続き、働きかけを強化してほしい

委員 施策の達成状況②、成果指標②、ここがひっかかる。説明等でも、いろいろ施策に取り組み、一定の評価を得ているが、あくまでも成果指標②のとおり、町民全体に視点を置いている。そうすることで、評価時に、直接的な対象者とならない町民も含まれるため、達成が困難になり評価が落ちないか、それがあるがゆえに、「大きく前進した」に移れないなら、もったいない。子育てを実際にしている人に焦点を置いていいと思う。育児が楽しいと思える割合が微減となったのは、注視し、分析するべき。成果指標の見直しを考えてもいいと思う。

有本 成果指標2行目は議論になっている。「住民意識調査」なので、子育て中の方以外も対象にするかは課題認識を持っている。施策名にも掲げているとおり、安心して子育てができる環境を整える子育て支援施策であるなら、この数値を置くことも必要だと思う。他自治体の類似する質問では、50～60程度の目標値が散見される。芽室は高い方。子育てしている人もそうでない人も含め、どう見直すか、今後見極めていく。

委員 事務局に対する意見だが、この施策以外にも住民意識調査をもってくる施策が多い。調査の回答率自体低いなかで、その中から対象者の声で評価している。一方で、住民全体がどう思っているのか把握するために、対象者を絞り（無作為抽出？）アンケート配布した方以外にも、積極的にアンケートに答えてもらう取り組みも必要かと思う、より良い回答を得るために検討してほしい。

委員 地域全体が子育て施策の理解を深めるためにどうすればいいか、子育て団体と行政との意見交換の場などに参加して感じたことは、地域がもう少し具体的な支援像（イメージ）を描けると、何をすればいいか見えてくると思う。子育て中の悩みと町の支援メニューがマッチするとは限らない。どういう支援があるのか自分で調べるところまで行きつかない方も多くいるなかで、気軽に話せる地域の人の存在が大切、そういう場で、情報をきちんと提供できる、そのような人材が保育所・幼稚園・カフェなど拠点となる場にいることで、助かると思う。

有本 子育て世帯が訪れる場に、まちの情報を持っている人がいて、気軽に相談を受けたり、必要な情報を提供できる、そのような人材が、子育て世帯の生活空間にいて、安心感が増す、というご意見だと理解する。それは重要な視点であるため、参考にさせてもらう。

(施策：子育て環境の充実)

大塚 質問のある方は発言してほしい。

委員 保護者アンケート、回答の割合を教えてください

佐藤 保護者アンケートは、保育所が現況届を全児童分行う際に、アンケートを同封している、回収率が100%になるように工夫している。

大塚 他にいなければ、評価の確認に移る。発言をお願いしたい。

委員 妥当、C評価。

委員 妥当、C評価。理由は、評価結果の下がった部分も分析して改善に繋げているし、国の施策を考慮し事業を進めている。

委員 妥当、C評価。子どもセンターの平日のおやつ持参、人材不足の解消に向けた就職説明会等、丁寧に事業を進めている。この時代に、説明会5名参加は、とても成果を上げているといえる。町内全体の子育て環境の充実が図られている。

委員 妥当、C評価。アンケート調査結果が高い水準を維持している。

大塚 今後の取り組みについて意見のある方はいるか

委員 施策方針に、保護者に教育情報の円滑な提供を促進するとある。多様な情報をネットで入手し家庭で解決するところもある、しかし、課題は多様化しているのが現状で、最新の知見に基づき、語り合える場で、保護者同士が学び合えることが理想だと思う。

有本 教育情報、学校に関する情報が、各家庭への講座などの機会を通じて行き渡り、子どもの自尊感情を育くために、どういう支援が必要なのか検証することが重要、自分とは違う家庭を知ることによって自己の価値観を変えられる、違いに触れることが非常に重要、子育て支援全体で考えていきたい。

委員 評価に関係はないが、病児保育の利用状況は把握しているか

佐藤 21名(R7実績)

委員 意見として、この辺が難しいと考えている。共働き世帯にとって、病児保育は欠かせない制度ではあるが、理想は子供が病気のときに親がすぐ休める職場環境だと思う。子どもの立場では大事、病児保育の利用を強く推し進めることで、利用頻度は上がるが、一方で子どもの感情が置いて行かれやすい。行政から職場への働き掛け、休みやすい環境を整える啓発など、制度運用と労働環境のバランスを取りながら呼び掛け

てほしい。

有本 子供の意見を聞くことは、部署として共通のテーマ、子どもがどうしたいか聞きながらルールを決めていく、町が事業を進めていく一方で、考えていなければいけない課題であると思う。

※30 分程度 休憩

19:50 再開

出席職員：森課長、有本課長、吉川補佐、塩原係長、喜多係長

（施策：生涯を通じた健康づくり）

大塚 施策（生涯を通じた健康づくり）に入る。質問ある人はいるか。

委員 事前質問について、健診を継続して受けている方が多い印象、健診可能な人数、受診者数を増やすことはできるのか

吉川 現在、健診を受けている方以外にも、利用枠はある。受診数が増えても対応可能。

委員 より受診者数を増やす方法を検討してほしい。健診は早期発見・早期治療につながる大切な手段だと思う。また、今年3月に、病院の地域医療シンポジウムを受講し、名寄の実例を見た。経過をみると市立病院では心不全の予後が悪く、ICTで救っていると聞く。調べてみると心不全が最近増えていることを知った。国の統計情報では女性が急激に増えている。芽室はどうか、心不全の方増えてきている傾向にあるのか。今後の課題ではないか、これまで生活習慣病を中心に注目し対策してきたが、心不全が増えていくと、見落としかねない。どう考えるか。もう少し統計を細かく取れないか、ICD-10を細分化して統計取れないか、

吉川 疾病分類で心不全がどれくらいいるのか、統計などはない。

委員 これから注目してもらう余地はあるのか

吉川 国が注目していることもあり、高齢化による心機能の低下などは、芽室町も起こりえるもの、心不全は確かに増えていると感じている。一方で、その根本には、生活習慣病が影響するため、そこの早期対策を講じることが重要と思う。保健指導等でも支援していきたい。心不全ももちろん健康を損なうリスクの高い病気だが、一つの疾患に注目せず、広い視点を持ち事業展開していきたい。

委員 心不全を見落とさないでほしい。健診では、心不全のリスクのある人がどれくらいいるか把握したことはあるのか、

吉川 心電図のデータは把握しているので、通常と異なる場合は、受診勧奨し、医療に結び付き、それが心不全の早期発見につながったこともある。

委員 引き続き、念頭に置いてもらいたい。

大塚 では、評価に移る。

- 委員 妥当でない、C 評価。目標値に達していないが、特定健診の受診率の伸び、勧奨方法や申込方法の工夫がされている、そういう観点で前進でいいと思う。
- 委員 妥当でない、C 評価。健診受診率をあげる努力をしていることで、少しずつ上がってきている
- 委員 妥当でない、C 評価。受診率の向上が難しいなかで、目標値には至っていないものの、工夫が見られる
- 委員 妥当、D 評価。アンケート調査結果が計画策定時をおおむね維持しているため

大塚 今後の取り組みについて意見はあるか

委員 アプリの活用の広がり期待したい。情報提供ツールを持つことで、その人の行動変容を起こせる。同時に、今後も、アプリの導入サポートを継続してもらいたい

森 昨年も話題に上がり、楽しみながらできることも必要だと意見をもらった。担当として後押ししていただいたと感じる。かなりの準備をしてきたこともあり、スタートは思いのほか良い感触。導入して終わらず、続けやすいものにしていきたい、

委員 芽室に総合病院があるメリットとして、高齢になったときの安心感は大きい。免許証がなくてもコミバスがあり通院できて、健康状態を見てくれ。医療情報を他機関とも共有できていることの安心感は強い。その活動をより進めて、安心して住み続け、病院に通いやすい環境を作ってほしい。特に、働き盛りの人に絞り、健康意識を高められるように取り組んでほしい。

森 同規模の自治体でも町内医療機関の対応にばらつきはある。芽室町は、開業クリニックも予防的健診に理解してくれるし、積極的に協力してくれる、そういう意味でも町民の健康保持に努めやすい環境ではあると認識している、歯科医院も薬局薬剤師も医療資源として協力的であるため、健康意識の低い世代をターゲットに注目し、施策が伝わりやすいように取り組む。

委員 地域包括ケアシステムを念頭に置いた事業を進めてほしい

森 公立芽室病院が強く進めてくれている。主にそのシステムは、高齢の人が安心して住み続けられ、望む生活の形を地域全体で支えていくことが理想。当然、障がいがあったとしても、だれでも望む暮らしが続けられるように包括的ケアをしていく。課で連携し体制を強化していくことの必要性を改めて認識したところ。

20 : 10 閉会

令和 8 年 7 月 2 2 日総合計画審議会専門部会 A－2

参加者： 阿部委員、飯島委員、平谷委員、中村委員

欠席者： 宿谷委員（書面提出）

ファシリ：西村さん 板書：河井

## 障がい者の自立支援と社会参加の促進

○質問

委員

成果指標の②について何人のうち 1 1 人なのか。一般就労の分母はどれくらいなのか。

清末補佐

就労支援サービスの全数を確認することはできるが、障がい者手帳を持っていて個人で就労した場合はカウントできない。

森課長

就労したい人数という意味では回答はできない。

委員

目標値との乖離はどのような理由が考えられるか。

森課長

当時に障がい者施設の開設等あったためと考える。

○評価の妥当性

委員 C

成果指標の向上、課題認識等取り組みから判断した。

委員 C

マネジメントシート全体を見て判断した。

基幹相談支援センターの強化、相談支援体制の強化という点を評価した。

委員 C

成果指標①は住民意識調査の数値で難しいと考え、成果指標②で判断をした。

委員 D

成果指標①目標値に届かないため。

3施策の達成状況の根拠（理由）にある「障害者の立場ではないためわからない」という回答が気になる。周知徹底されていないためではないかと考え判断した。

委員 C

成果指標①の増加から。

○今後の取り組みに対する意見

委員

住民等からの相談内容により各課で横断することがあると思う。庁内の連携に力を入れてほしい。

森課長

重層的支援として行っていくことで、課を横断し連携に力を入れるため整備を進めている。

委員

高齢化社会であるため、障がい者が高齢化した際の取り組みを。

清末補佐

65歳で通常は介護のサービスに切り替えを行っている。

だが切り替わらない方もいる。高齢者の相談をする地域包括支援センター、障がい者の相談をする基幹相談支援センターがあいあいの2階にあり、同時に相談を受けることができるよう取り組んでいる。

委員

障がい者施設の職員の業務量が多く苦勞していると聞いた。

障がい者だけではなく、働いている職員のことも考えてほしい。

清末補佐

今年度は障がい福祉計画の策定の年である。その際にアンケート調査をする。

事業所にもアンケートをとり状況の確認し、計画に盛り込むことを考えている。

委員

「障害者の立場ではないためわからない」という点について、具体的に何をしたらいいか分

からないが、健常者が障がい者に触れ合う機会の創出をすることで解決にならないか。

委員

参加型の啓発は興味のある人しか行かない。だから難しいのではないか。

例えばイベントの一角で行うなど、強制的に参加、触れ合うする機会を設けてはどうか。

## 互いに認め合う地域社会の形成

### ○質問

委員

この施策は広く人種差別など多種多様なことを取り扱っているものと感じる。  
男女共同参画についてしか触れられてないと感じる。

森課長

男女共同参画のみの記載ではなく、人権擁護や、高齢者の権利擁護についても盛り込んでい  
る。

### ○評価の妥当性

委員 C

成果指標が前年実績を上回っていることから判断。

委員 C

言葉の意味が分からない部分があり、全体が大きく感じる。  
判然としない部分はあるが、実施していることは理解できたため。

委員 C

成果指標が向上していることから判断。

委員 C

成果指標が右肩上がり。  
普及啓発が進んでいることから右肩上がりになった評価。

委員 C

成果指標①の実績が伸びてきていることから。

### ○今後の取り組みに対する意見

委員

子どもの人権教室を行うことはいいことだが、子供にきちんと伝わっているのか。

委員

5施策の課題認識にある認知症等の権利擁護をぜひ進めてほしい。

委員

子どもの人権教室は良いことと考える。

大人だと難しいため、子供からの教育が重要だと感じる。

委員

男女共同参画が足りてないと感じる。まだまだ進めてほしい。

上寫主査

子どもの人権は重要と考えている。今後も続けていく。

河井

男女共同参画は継続し啓発を行う。

委員

自分が子供だった時や、それより前は考えられなかったが、今は女性の生徒会長や企業の経営者などなかった。なので進んでおり、今後も進んでいくのではないかな。

森課長

「アイヌが」や「障がい者が」といった、個別の取り組みだけではなく、広く進むよう取り組みを行う。

委員

成年後見制度は業務委託で社協が行っており進んでいると感じる。

## 高齢者福祉の充実

○質問

委員

介護人材の確保はどうか。

久保課長

厳施設がストップするほどではないが、しい状況である。全国的にも厳しい状況である。

委員

なり手がいない要因はどういったものを考えているか。

久保課長

主なものは待遇面と考えている。

○評価の妥当性

委員 C

マネジメントシート全体を確認し判断。

委員 C

成果指標からを中心に考え、担当課評価の欄からも前進したと判断。

委員 C

担当課評価の欄から判断。

委員 C

後期実施計画から見て成果指標が前進していると判断。

委員 D

成果指標③が過去3年で最低となっていることから。

○今後の取り組み

委員

5施策の課題認識に記載のとおりお願いしたい。

窓口で難しい話が出てくると思うが、粘り強く取り組んでほしい。

委員

高齢者は機械化、A I が進んでも難しいのではないか。

この施策は人と人の接点が大事だと考える。介護サービスの人が減ると満足度は下がると考える。なので、人材確保が大事だと考える。

委員

高齢者人口の増加が考えられるが、予算の配分が足りなくならないように取り組んでほしい。他の委員と同様に、人材確保が大事だと考えている。

委員

まる元の事業の予防は良いことだと考える。

介護人材が集まらない点についてどのように取り組んでいくか。

久保課長

5 施策の課題認識に記載の地域包括ケアシステムについては以前から取り組んでいる。

現在は全世代に取り組みを進めている。

介護人材については、介護報酬の人件費の改定が改定期ではない今年度に緊急で行われている。なり手不足の一部の解消につながるのではないかな。

予算については、介護保険にかかる計画についても次期計画で、財源である介護保険料についての検討も行っていく。

委員

高齢者が買い物難民になっているのではないかな。

河井

じゃがバスや農村部タクシー助成を行っており、取り組みは行っている。

久保課長

交通は通院の助成を行っている。

住民意識調査では、交通を不安に思う意見がある一方、じゃがバスが便利という声もある。

必要に応じ、政策推進課と検討していきたい。

委員

CHIKUWA！というシステムで高齢者の見守りを行っている地域がある。導入についてはどうか。

河井

町内会のシステムと別の会議の際に話があったと記憶している。

再度、意見があった旨、魅力創造課に伝える。

委員

高齢者福祉を充実させるために、民生委員からの情報共有や、役場からの情報提供があれば、より良くなると考えている。今後も協力をお願いしたい。

久保課長

民生委員の制度について、守秘義務など持った非常勤の公務員であり、重要性は改めて周知は行った。今後も連携していきたい。

令和8年度第1回芽室町総合計画審議会評価専門部会 B-1

参加者： 櫻田副部長、津本委員、川合委員、西川委員、村山委員

○進行方法説明

事務局

会議の進め方を説明。

○ 2025 年度(令和7年度)施策実績評価について

①徹底した情報共有と町民参加の促進

・質問

委員

課題認識について、芽室未来ミーティングに気軽に参加できるとあるが、参加することが目的になっており開催方法以外は検討の余地がなかったのか？

横山係長

定例型と巡回型は敷居が高いと感じられていると考え、気軽にと記載した。

みなくる祭りの時に町長室を開放したり、子育て世代対象で行ったりしたが、定例と違う年齢層の人たちに来てもらいコミュニケーションをとっていきたい。同様がいいのか改善がいいのかという部分で記載した。

委員

町民参加の促進について、情報共有は記載があるが、町民参加の促進がどこに書かれているのか？

横山係長

施策上で出てきていない。成果指標を踏まえて記載したが、読み取る部分がない。次期策定では指標で表すことができないか検討中。

委員

2200 万円かけて、どのような広報事業を行っているか知りたい。

横山係長

事業で行くと、広報誌や SNS となる。予算面で見ると広報誌がメインとなる。

1300 万円以上が発行にかかっている。(7300 部)

次点で HP 等の更新。

・評価について（庁内評価 C）

C 評価 4 名。D 評価 1 名。

SNS の活用等で町民が情報に触れる機会は増えている。

指標自体は下がっていること。行政情報の公開や説明責任が果たされているかは懸念点。

・今後の取組について

委員

芽室未来ミーティングの気軽に参加できる参加方法の中で、多様なニーズに対応した対話を考えてもらいたい。町長だけでなく、各課との対話の方が近い対話ができると思う。

また、オンラインやメタバース等のツール活用も考えてみては？

横山係長

各課に意見共有は可能なので、そのような場を設けていきたい。また、YouTube で 2 回ほど未来ミーティングを行ってみた経緯もあり、テーマが定まっていた方は手応えがあり 1 つの手法になり得ると考えている。さらに、テキスト入力で会話するプラットフォームも検討中であり、様々な手法を模索したい。

委員

- 1、国の流れとして DX が進んでいるので、この施策についても進めてもらいたい。（意見）
- 2、少数排除という意味では全くないが、ホットボイスの基準を見直す時期に来ていると考える。

横山係長

ホットボイスについては、町民の声を施策に反映する目的もあるが、減ってきていることに課題は感じている為、見直しも必要である。

委員

アナログ手法を残してほしいという声があるが、方法の検討は？

横山係長

メインは広報誌とし、LINE や HP から飛べるようにしデジタルと併用していく考え。

②有効な土地利用の促進

・質問

委員

施策の事業費が 2023.2024 と続けて大幅増加し、2025 で減少した理由を知りたい。

佐藤補佐

事務事業の統廃合を行って、集会施設で1億4千万ぐらい増えている。

それ以外は細かい委託料や測量費の経費で増えた。

委員

工業団地を新しく進めたことはこの施策に含まれているか？

佐藤補佐

土地利用の観点では含まれるが、費用系は特別会計で行っている為含まれない。

委員

工業団地が進んだ評価をしたい場合ここにいたら間違いか？

佐藤補佐

想定していた土地を計画通り利用できたという評価であれば、ここで良い。

委員

成果指標①の目標値で、過去の緩やかな推移的に7140戸を達成は難しいと思うが、取組の延長で達成できることになっている。経緯を教えてほしい。

佐藤補佐

住宅戸数の推移だと難しいが、土地利用の観点で街中の公営住宅だった土地を売ったりする中で、既に関手がついていたり、需要と供給の兼ね合いはあるが、前進していると判断した。

委員

子育て世代が安心して定住できる環境とは？

佐藤補佐

ピウカ公園の下台を分譲した際、その層をターゲットにした。今は町ではなく、住宅メーカーで分譲しており、直近だと芽小前の土地に着工しており、学校が近い等で安心できると

考える。

- ・評価について（庁内評価 C）

C 評価5名

工業団地での土地利用が進んでいること、人口減少の中でも住宅着工が前進し若い世代も増えている。

- ・取組について

委員

街中の空洞化防止に努めてほしい。（意見）

委員

住宅費用が高騰しており、町有地を活用して少しでも安くなるよう促進して欲しい。

佐藤補佐

空いている未利用地を宅地にできるよう続けていきたい。

委員

成果指標の見直し。戸数の数字は見やすいが、今後の人口増加が難しいため他の表が必要では？また、住んでいる人からの土地利用であるとの評価をとるものの方が良いのでは？

佐藤補佐

6期総では工夫が必要な部分であると認識している。シンプルな人口増加が良いのか、生活圏を集約し生活がそこで完結するコンパクトシティが良いのか検討していきたい。

### ③快適な住環境の整備

- ・質問

委員

花菖蒲園の維持管理事業について、災害の被害を受けて花菖蒲が減っているが、現状の状況を教えてほしい。

齋藤課長

H28年の災害前と比べたら少ない。ここ数年の高温で、株分けしたものが育っていないことや根付きの問題も増えない要因の1つである。今年度は綺麗に育っている株もあるので、来年度は少し改善されと考えている。色々な部分を整備していきたい。

- ・評価について（庁内評価 C）

C 評価5名

公園整備や菖蒲園の復興等で全体的に前進している。

- ・今後の取組について

委員（意見）

芽室公園の再整備構想について、まちなかへの誘導を取り入れてもらいたい。

また、芽室蔡場整備にも取り組んでももらいたい。

委員

町内の空き家について、亡くなった後の未相続問題を想像しているが、相続登記の窓口や専門家との連携を強化して空き家対策を強化してもらいたい。

橋本課長

空き家対策としては、魅力創造課と連携して窓口を設けている為、周知をしていきたい。

第1回総合計画審議会評価専門部会 グループB-2

7月22日(水) 18時30分～ 地下 第5会議室

出席者 佐藤 片桐 欠席者 今田(書面あり) 野崎(書面あり) 黒田

ファシリテーター 岩野 板書 大石

◎環境保全とエネルギー

質問

委員 芽室公園 ビジターセンター開設予定だと思いますがいつごろか？

齋藤課長 令和10年4月には供用開始予定 ビジターセンターも入る

委員 日高山脈の協議会の役割方向性と記載があるが、どんな協議会なのか？

齋藤課長 十勝管内の6町村で 十勝の観光連盟と協力しながら帯広空港からの周遊ツアー  
冊子の作成・配布を行っている。協議会会長は手島町長

委員 募集はどんな人を対象に

齋藤課長 小さい飛行機なので、旅行会社が募集をした。日高山脈を上から見ている。

委員 いろいろな山が見えていい取り組みである。

委員 グッズ作成とは何を予定しているか

齋藤課長 タンブラー、Tシャツを作っている。

委員 他に作る予定はあるか

齋藤課長 今のところはない。

委員 太陽光設備の乱立について釧路で問題になったと思うが

齋藤課長 釧路市は新たに条例を整理した。北海道は制定するつもりはない。  
その自治体が規制したい場所を地域に応じて制定することとしている。

委員 芽室町は作るのか？

齋藤課長 条例を作ろうと動き始めている。年内に制定を考えている。

委員 こんなに問題になるとは思わなかった。

齋藤課長 設置業者が地元民に理解を得ることをしていない。それもあって、強い規制にな  
っている。

評価

委員 妥当

委員 妥当

委員 妥当

委員 妥当 循環型エネルギーやゼロカーボンなどの推進は、地球温暖化対策や自然環境の  
保全に繋がり、また環境美化活動は、不法投棄やポイ捨てなどへの心理的抑止  
あるうえ、景観向上などに寄与することから、課題に沿った取り組みだと考え  
られるため。

今後の取り組みに対する意見

委員 なし

委員 なし

委員 別紙のとおり

→斎藤 北海道の補助金では新築住宅の補助がありそのメニューの活用を考えていきたい、財政的な面もある、手を出せていない。庁内で検討を進めたい。

## ◎廃棄物の抑制と適正な処理

質問

委員 電池の回収が非常に難しい。電池の区別をきめ細かく、絵で見せることがいいとは思うが？

平山係長 ゴミの手引きで電池の捨て方、広報誌でも周知しております。ただ、適当に捨てている人もいて、発火につながることもある。LINEなどの周知も行いたい

齋藤課長 リチウム電池でもいろいろあり、かなり複雑である。徐々にバージョンアップを図り目に届くようにしていきたい。新しい製品がつぎからつぎと出てくるので対応に苦慮している。徐々にバージョンアップしていきたい。

平山係長 適正な回収ルートが無い場合は町で対応する

委員 色付き指定ゴミ袋について、札幌市はやめたがどうかと思っている。

細分化してゴミの分別をできればと思う。新しくりりんの分別は共通でやること進めてはどうか。

齋藤課長 ゴミ袋 新しくりりんを動かすにあたって、まちはどうするか

色付きを使っているのは芽室町だけ。令和8年度に結論を出す。

札幌市の事例は、ナフサ不足で市販の透明袋を使って良しとしている。

若干考え方が違っている。

色付きの不安定さがあり、結論を出していきたい。

全市町村が新しくりりにゴミが入る。8市町村はウインクリンにもっていったところ。

住民審議会で2026年に色付きゴミ袋の結論は計画の中で整理をしていく。

評価

委員 妥当 これから難しくなっていくのでがんばってもらいたい

委員 妥当

委員 妥当 町内会のゴミステーションの設置の有無は町内会で検討してもいいのでは？

委員 妥当 成果目標①の実績からも大きな後退ではないと思いますが、現状行政としてもすぐ行えるような技術革新がないため。

## 今後の取組

委員 町民から資源ごみの有価物をなんとか町内の資源にできればいいと考えているがなかなか難しいかもしれない。

平山係長 重量に応じた助成金を出している。それ以外に各種団体も対象にしている。

委員 野菜残渣を砕いて、下水に流している地域もあるが芽室町はどうか？

齋藤課長 帯広市が試しでやった。下水管に負担を与えるのでどうかという声がある。

町民からは電動コンポストの助成の声がある。

ゴミの減量には一役かうが。EM菌で対応する地域もある。

計画の中でも管内の自治体の話を聞いてまちの方向性を考えていきたい。

平山係長 毎年要望がある。性能も上がりにおいがあまりしない。

齋藤課長 バイオマスを行う時生ごみはかなり有益で、ガス、発電につながる。

民間資本と協力しながら取り入れることができればと思う。

委員 子どもたちへの教育

齋藤課長 小さい時から習うことで、植えつけられることなので、環境教育をどうしていくかは大きい所だと思うので、学校と協力するなど町の取り組みとして検討していきたい。

## ◎道路交通環境の整備

### 質問

委員 コミュニティバスの利用向上を図ってほしい

間口除雪、福祉除雪は有料になってから0になった。検討の必要は無いのでは？

大石係長 じゃがバスは年間16,000人程度 1便当たり平均9.2人

デマンド運行を検討中 バスも小さくすることも検討しているが、シルバーカーが乗れないこともあり、悩んでいる。

岩波係長 ゴミサポートをやっているところだけ間口除雪。

委員 間口除雪は無理だと思う。みんな堅い雪に困っている。路面整成をやめて広くさら々と除雪したほうがいいのではないかと思う。

岩波係長 除雪もタイミングもある。降雪後は路面生成をしている。がたがたの時は間口に雪を置かないようにしている。

委員 除雪しすぎて道路が欠けているところもある。

委員 福祉除雪は1メートル幅の玄関までということで認識をしています。

### 評価

委員 妥当

委員 妥当

委員 妥当 公共ライドシェアの実証実験など役場としていろいろな対策を行っているから

委員 妥当 成果目標も著しい低下ということでもなく、冬期間の移動手段の確立、除雪状

況など個別対応が難しい行政として、十分役割は果たしている為

今後の取組

委員 農村地帯はどのように対応するか

→タクシー助成を実施している。

委員 意見無し

委員 じゃがバスの予約制

免許返納者の負担できる体制の確立・情報の発信